

共生・共創する社会を目指して

「共生・共創」は、平和で持続可能な社会の命運を握る重要なテーマです。複数種の生き物の相互関係、人格と個性を重んじた社会福祉、環境資源の安定的な活用など、豊かで健やかな社会を共に創るために様々な研究が今日なされています。

第6回研究井戸端トークは、生物学・福祉学・人類学という観点から、学問分野を横断して考えてみます。

2022年8月5日（金） 16:30～18:00

内容 ▶ 簡単な話題提供 + 参加者も含む自由な対話

対象 ▶ 学内外の研究者・大学院生、企業・一般の方どなたでも！

開催形式 ▶ 現地(20名限定) & オンラインハイブリッド開催

(場所：広島大学ミライクリエイティブ多目的スペース、コーヒー&ミニワッフル付)

事前登録 ▶ <https://forms.office.com/r/KacpGgtj3G> またはQRコードから



◆ 関 恒樹 教授（司会）

広島大学大学院人間社会科学研究科

専門：文化人類学・東南アジア地域研究

グローバル化と開発の諸側面を、文化人類学とフィリピン地域研究の視点から研究。社会政策や福祉国家といった近代の制度を、人びとの具体的な生のあり方とその変容に注目しつつ考えようとしています。具体的なテーマは、都市貧困、スラムの土地・住宅政策、資源管理、移住・移民など。



◆ 山田 俊弘 教授（話題提供）

広島大学大学院統合生命科学研究科

専門：生物多様性・生態学

熱帯林の生物多様性を専門とし、インドネシア、マレーシア、ミャンマーの熱帯林で研究を行っている。「意識しなくても生物多様性を守れている世界」を作ることを目指し、そのための仕組みづくりを模索中。著書『〈正義〉の生物学 トキやパンダを絶滅から守るべきか』（講談社）発売中。



◆ 河本 尚枝 准教授（話題提供）

広島大学大学院人間社会科学研究科

専門：社会福祉学

日本に暮らす外国籍および外国にルーツを持つ日本人の福祉、特に子どもと高齢者を対象に研究している。近年は広島県で暮らす中国帰国者の介護福祉ニーズや必要な支援について調査研究を実施。高等教育機関で学ぶ留学生のアカデミックスキル習得についても研究している。



◆ 吉田 真理子 助教（話題提供）

広島大学大学院人間社会科学研究科

専門：文化人類学、環境人類学

海洋酸性化や海水温の上昇による生態系への影響、養殖従事者の減少と高齢化、水産物消費の変化やバイオテクノロジーの課題など、牡蠣のサプライチェーンで多層化する不確実性や不安定性について文化人類学の視点から検討。人新世や資本新世における共生とは何かを捉えなおす研究を行っている。